

R7 年度 訪問看護・医療機関相互研修 報告

研修実施期間: R7 年 7 月 ~ R7 年 2 月

研修参加者: 医療機関 → 訪問看護ステーション 3 名 計 10 日間
訪問看護ステーション → 医療機関 8 名 計 10 日間

【医療機関 → 訪問看護ステーション 研修】

- ❖ 精神訪問看護に特化したステーションで、自施設を退院した利用者へ 2 日間訪問同行
- ❖ 外来継続看護を実施している看護師が、5 日間訪問同行
- ❖ 退院支援を行っている看護師が、3 日間訪問同行



【参加者感想】

- ★ 入院していた方の、退院後の生活状況を知ることが出来た。訪問看護を受けることで安心・安全に地域で生活できていることを感じました。今後は顔の見える連携で協同していきたい。研修に参加して本当に学びとなり良かったと思っています。
- ★ 病院スタッフとしてできる連携として、指導内容や意向を伝え、人との繋がりをもって対象者の在宅療養を支援できるよう、今後の活動に活かしていきたい。
- ★ 今まで訪問看護との関わりは、紙面でのやり取りも多く不思議に思っていた点もありました。研修で訪問看護の役割や多職種連携の実際を知り、入院中からもっと取り組める事があると感じました。お互いを知ることができる機会となりました。

【受入先 訪問看護ステーション 感想】

- ★ 退院前の患者さんの不安を改めて知る機会となり、今後に活かしていきたいと思う。
- ★ 病院と在宅では見える視点が違っていると話されており、受け入れ側のスタッフも多くを学んだ
- ★ 病院の最新の状況、情報を知ることができ、今後看護をするうえでの学びが多かった。

【訪問看護ステーション → 医療機関 研修】

- ❖ 退院支援部門にて、地域連携室の役割・退院支援の具体的な取り組みについて
- ❖ WOC ナースより、ストマトラブルの対処方法・ストマケア手技等について
- ❖ 神経難病患者の入院する病棟で、人工呼吸器の取扱いやケア方法について
- ❖ 重症心身障害児・医療的ケア児入院病棟・親子入院・生活介護事業所見学、医療的ケア児等支援センターの活動・役割について



【参加者感想】

- ★ 病院での指導やケア内容を深く理解することでより、一貫性ある支援が可能になると感じた。
- ★ 座学より、実際に肌で感じることで学びが深まりました。知見が広がり、貴重な研修でした。
- ★ コラソンの考え方に感銘を受け、訪問看護へ期待の言葉をいただきモチベーションがあがった

【受入先 病院 感想】

- ★ 訪問看護が対応している事例や地域の課題について情報共有でき、今後の連携につながる。
- ★ 訪問看護における状況や困り事、ケアを行う上で必要な情報を共有する貴重な機会となった
- ★ 現場の声を聞くことで学びがあり、病院としても刺激を受け、成長することが出来た。